

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

皆のために

山江村立山江中学校

三年 田原 愛弥

「税金」小さい頃の私はその言葉にあまり良い印象がありませんでした。皆が、様々なものを買うときに、もとの値段に上乗せして、税を払う必要があるのは何故だと思っていました。その税金が私たちの生活をよりよくし、今あたり前のようにある暮らしをつくっているということも知らずに。

私は生まれつき「口唇口蓋裂」で生まれたときからずっと県外の病院に月一で通ったり、入院・手術を数回繰り返してきました。もちろんこれらには、沢山のお金が必要になります。月一の通院も私と最近矯正をはじめた妹の分のお金を払う必要があります。病院から家に帰り別日に母は会計時にもらう私の分の領収書を持って、役場に行きます。そこで何をしているのかを聞いてみると、山江村にある「すこやか子ども医療費助成」などの申請をして病院で払った分のお金がかえってくるようにしているそうです。他にも私は、「山江村自立支援医療費（育成医療）支給」の対象になっています。これらの制度は治療にかかる医療費の一部負担をしてくれます。私はこれらの制度にとっても助けられているとよく感じます。税金がないとこのような制度はないし、私も手術・入院・通院ができて今の生活を送ることはできないと思います。

このように私たちの健康のために使われている税について調べてみました。まず、日本の医療費財源は「自助」「公助」「共助」から成っているそうです。「自助」は医療を受けた患者さんが支払うことで医療費の総額十パーセント程度。「共助」はみんなで助け合うというもので保険料のことで全体の約五割。「公助」は税金のことで約四割という構成になっているそうです。もし税金がないと、税金でまかなわれている約四割が自己負担になってしまうかもしれません。そうすると税金が、どれほどありがたいがたくて私たちの生活をよりよくしてくれているかが分かります。このように私にとって「税金」は私たちの生活になくてはならないものになっています。物を買うときに上乗せされる消費税なども、巡り巡って私の身のまわりのものの財源の一部になっています。また、十八歳以下の医療費無料や育成医療、「誰かのために、助けになる使われ方」もされているということをしっかり理解したいです。今は十四歳ですが、いずれ、私も納税しなくてはなりません。何も知らずにいるよりも、どんな風に使われ、社会の中でどんな役割を果たしているのかを知っていききたいです。

税金のありがたみを理解し、私たちはみんなが公平に同じように生活できる世の中になる事がどんなことを考える必要があります。一人一人が充実した生活がおくれるように、社会がよりよくなるためなら私はしっかり納税したいです。